

～はじめに～

目次

CADEWA Smartを操作してみましょう

1. CADEWA Smartを起動して、画面を確認してみましょう
 - CADEWA Smartを起動する
 - CADEWA Smart画面を確認する
2. 図面を開いて、画面を操作してみましょう
 - 図面を開く
 - マウスの使い方
 - 表示ビューの切り替え
 - CG表示
 - ウィンドウのレイアウト
 - 寄り合わせ
 - 断面表示領域の設定
3. コマンドを起動してみましょう
 - コマンドの起動方法
 - ハンドル
 - プロパティ
 - ヘルプの起動方法

マウスの使い方



…指示位置をクリック (左クリック) します。



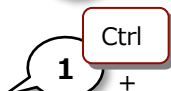
…指示位置をマウス右ボタンでクリックします。



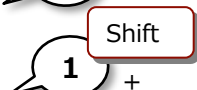
…指示位置をダブルクリック (左2回クリック) します。



…マウスを表示位置に近づけます。



… [Ctrl] キーを押しながらクリック (左クリック) します。



… [Shift] キーを押しながらクリック (左クリック) します。



…マウス右ボタンをクリックしたまま移動します。

右ドラッグマウス移動

1.

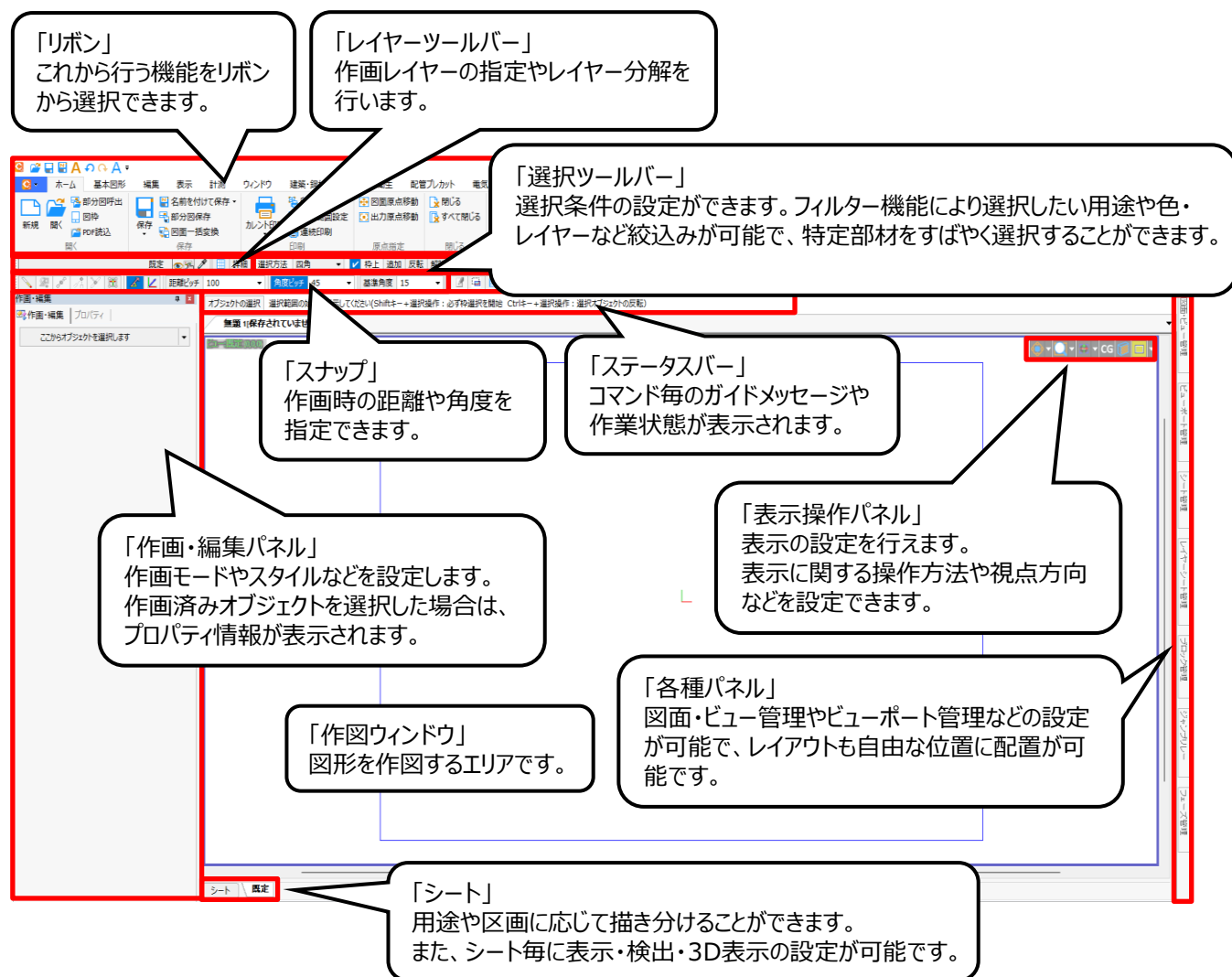
CADEWA Smartを起動して、画面を確認してみましょう

➤ CADEWA Smartを起動する

デスクトップ上の [CADEWA Smart] アイコンをダブルクリックします。



➤ CADEWA Smart画面を確認する



補足説明

パネル位置の初期化

パネルの位置を初期化したい場合は、リボンの「ウィンドウ」から「パネル位置と状態の初期化」をクリックします。

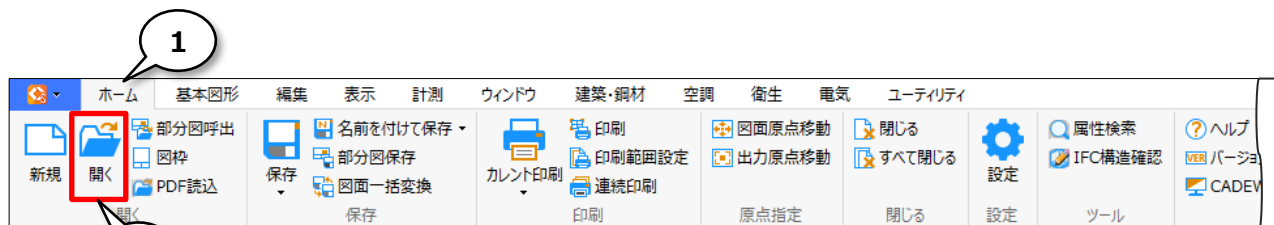


2. 図面を開いて、画面を操作してみましょう

➤ 図面を開く

使用する図面は [Smart_70_B01_sample.ZDW]

リボンの「ホーム」から「開く」をクリックします。
ファイルを選択し、「開く」をクリックします。



CADEWA Smartで開くことのできる図面形式は次の通りです。

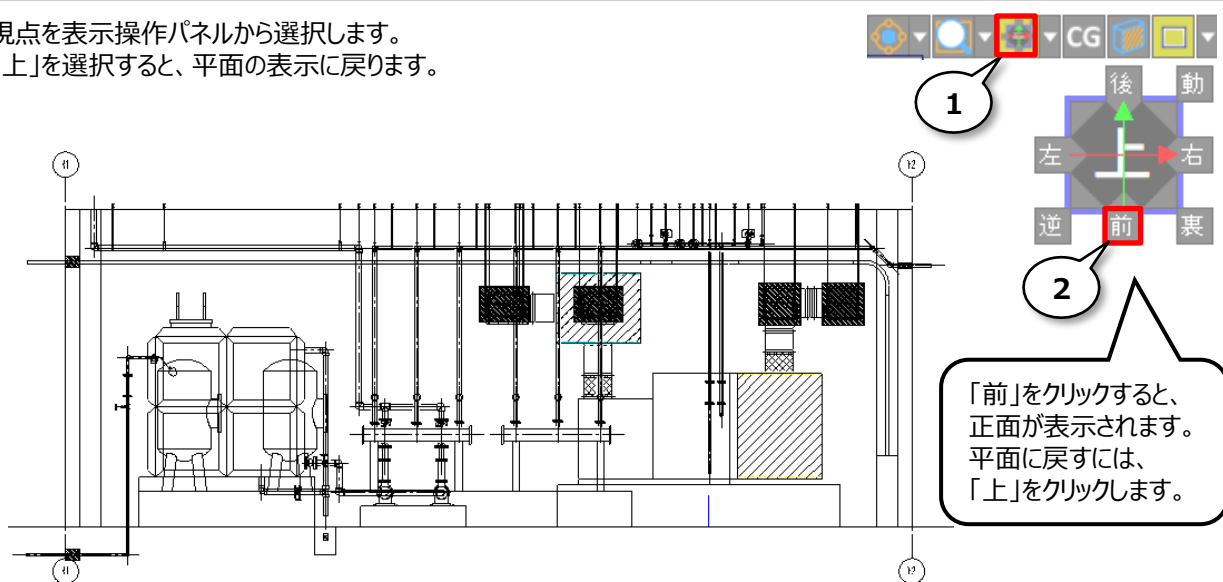
- CADEWA Smartの図面(*.ZDW)
- CADEWA Realの図面(*.ZDU;*.ZDX)
- CADEWA Evolutionの図面(*.ZD3)
- AutoCADの図面(*.DWG)
- AutoCADのDXFファイル(*.DXF)
- IFCデータファイル(*.IFC)
- BE-Bridgeデータファイル(*.CEQ)
- Jw_cadの図面(*.JWW;*.JWC)
- Parasolid形式(*.x_t;*.x_b;*.xmt_txt;*.xmt_bin)
- Scalable Vector Graphics(*.SVG)
- SXF仕様のファイル(*.SFC;*.P21;)
- Revitプロジェクト(*.RVT)
- Revitファミリ(*.RFA)

➤ マウスの使い方



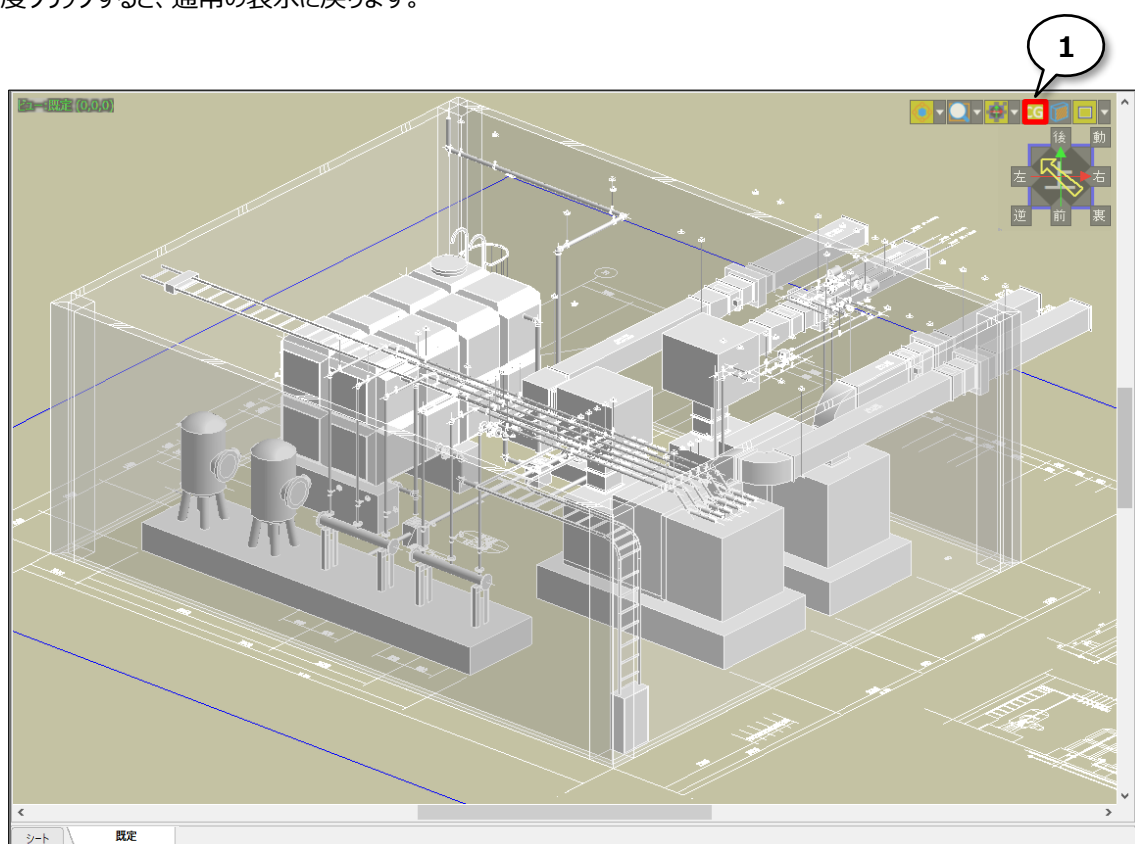
➤ 視点の切り替え

視点を表示操作パネルから選択します。
「上」を選択すると、平面の表示に戻ります。



➤ CG表示

「CG」ボタンをONにすると、画面がCG表示に切り替わります。
再度クリックすると、通常の表示に戻ります。

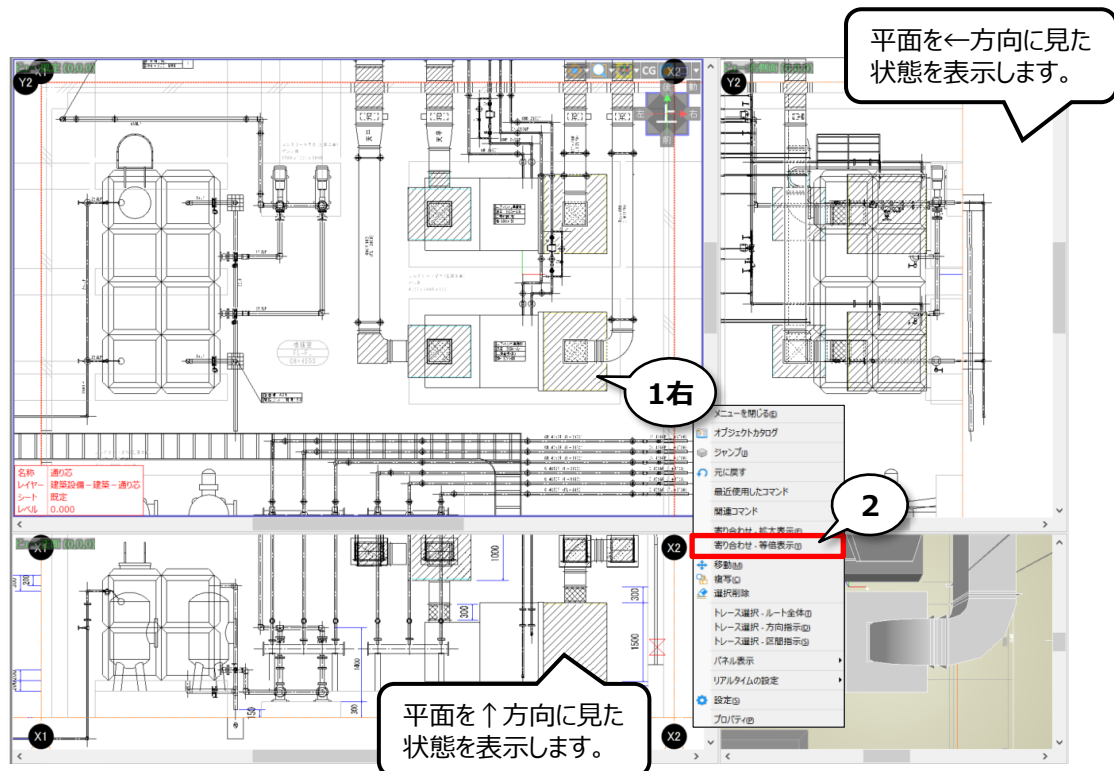


➤ ウィンドウのレイアウト



➤ 寄り合わせ

コンテキストメニューの「寄り合わせ」で、平面と断面の表示位置を合わせることができます。
指示した部材を基準に平面と断面の位置が、基準となる画面と同じ表示倍率で表示され、位置が揃います。



「拡大表示」の場合

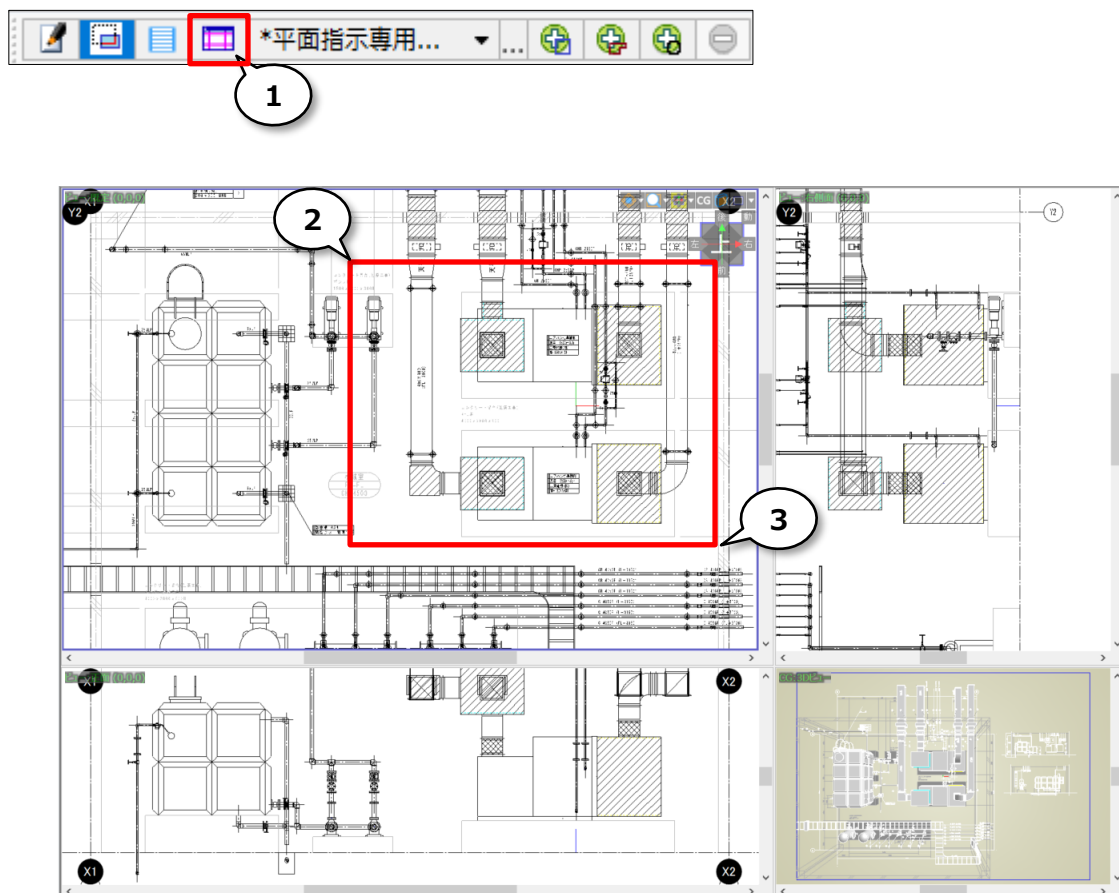
指示した要素を中心に、各画面の位置を合わせて最大表示します。

「等倍表示」の場合

指示した画面の表示倍率で、指示要素を基準に他の画面を揃えて表示します。

➤ 断面表示領域の設定

断面に表示させたい領域を平面で範囲指示します。
指示した領域のオブジェクトが正面、背面、左側面、右側面に表示されます。



指示した領域を保存したい場合は、下の⑥もしくは⑦で領域設定します。



- ① 設定した断面表示領域の編集
- ② 設定領域の有効／無効
- ③ オブジェクト毎の断面表示設定
- ④ 平面専用断面表示領域の編集
- ⑤ 断面定義一覧の表示（設定した断面定義名称の編集）
- ⑥ 矩形で断面表示領域を設定（矩形内のオブジェクトのみ断面に表示）
- ⑦ 多角形で断面表示領域を設定（多角形内のオブジェクトのみ断面に表示）
- ⑧ オブジェクトで断面表示領域を設定（指定したオブジェクトのみ断面に表示）
- ⑨ 設定した断面表示領域を削除

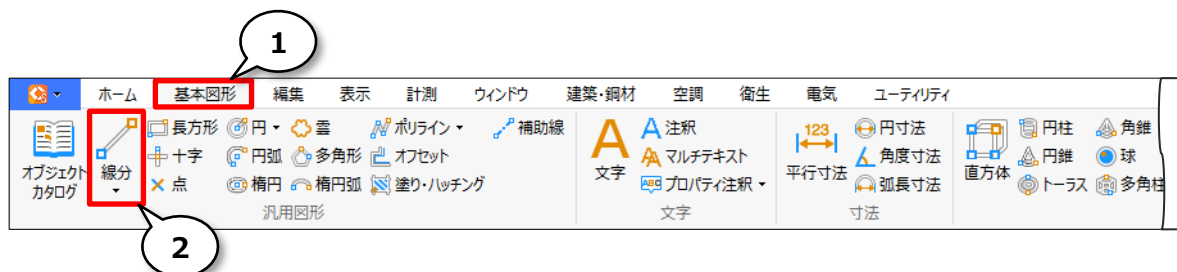
3. コマンドを起動してみましょう

➤ コマンドの起動方法

次の方法でコマンドを起動します。
オブジェクトの編集については、「ハンドル」や「プロパティ」から行うことができます。

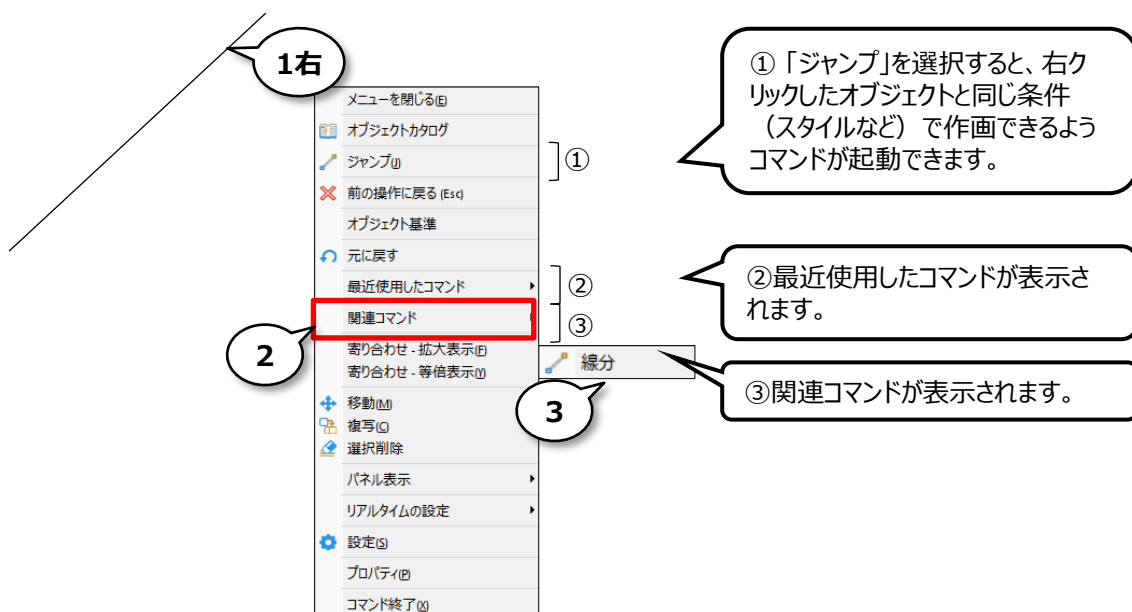
・リボン

リボンから目的のコマンドを選択します。



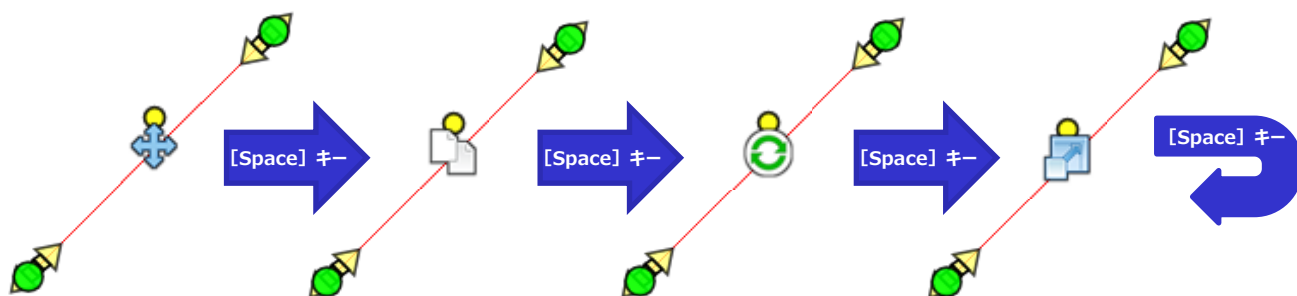
・コンテキストメニュー

作画されているオブジェクトの上で右クリックすると、オブジェクトに関連するコマンドと最近使用したコマンドが選択できます。



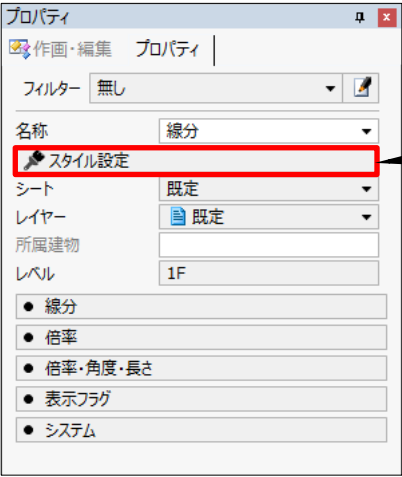
➤ ハンドル

コマンドが何も起動していない状態で、オブジェクトを選択すると、マークが表示されます。
マークが表示された状態で[Space]キーを押すと、マークの種類が切り替わります。
移動や伸縮など、行いたいマークをクリックし、オブジェクトを編集します。



プロパティ

コマンドが何も起動していない状態で、オブジェクトを選択すると、左パネルにプロパティが表示されます。作画済オブジェクトのスタイルやレイヤーなどプロパティで変更することができます。

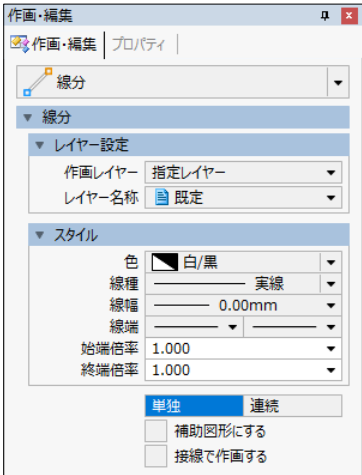


色や線幅などのスタイルの変更は「スタイル設定」ボタンをクリックして表示される画面で行います。

1

ヘルプの起動方法

コマンド使用中に [F1] キーを押すと、コマンドに関する [ヘルプ] 画面が起動します。



「線分」コマンド実行中に [F1] キーを押すと、「線分」コマンドのヘルプが表示されます。

